

自己評価報告書

令和4年度 中央区立 中央小学校 自己評価報告書				
学校名：	中央区立中央小学校		所在地：中央区湊1－4－1	
校長名：	山本 有子			
児童数	3 1 7 名	学級数	1 2 学級	教員数 1 7 名 職員数 3 名

本校では、「1 人と関わり合い、互いを思いやる心の育成」、「2 児童の学力向上」、「3 児童の体力向上」の3点を重点目標に教育活動を行っています。これらについて、教員の自己評価を行うとともに、令和4年12月から1月にかけて保護者、児童（4～6年生）による学校評価アンケートを実施しました。保護者学校評価アンケートの回収率は、67.1%でした。

1 重点目標の達成状況及び取組状況

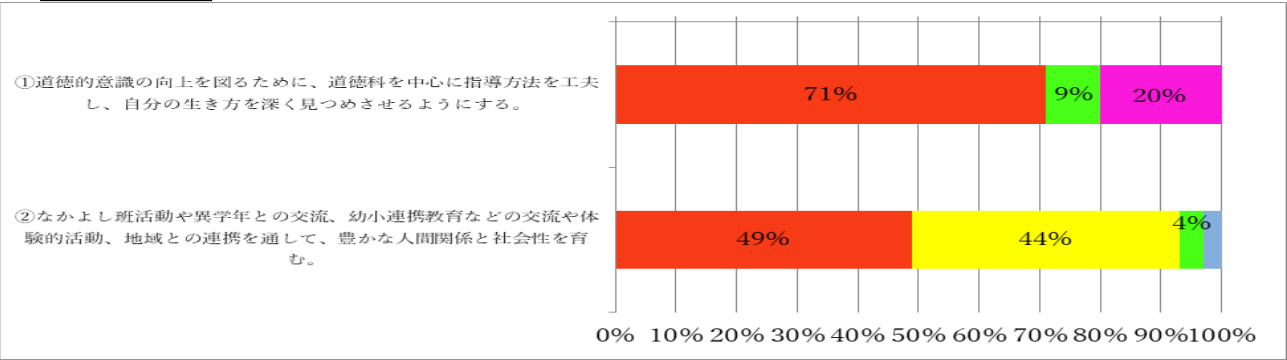
重点目標3項目の「よくあてはまる」「あてはまる」の評価の合計を平均すると、教員は97.7%、保護者は87.8%となりました。以下、重点目標ごとの結果です。

〈グラフ中の色と内容〉

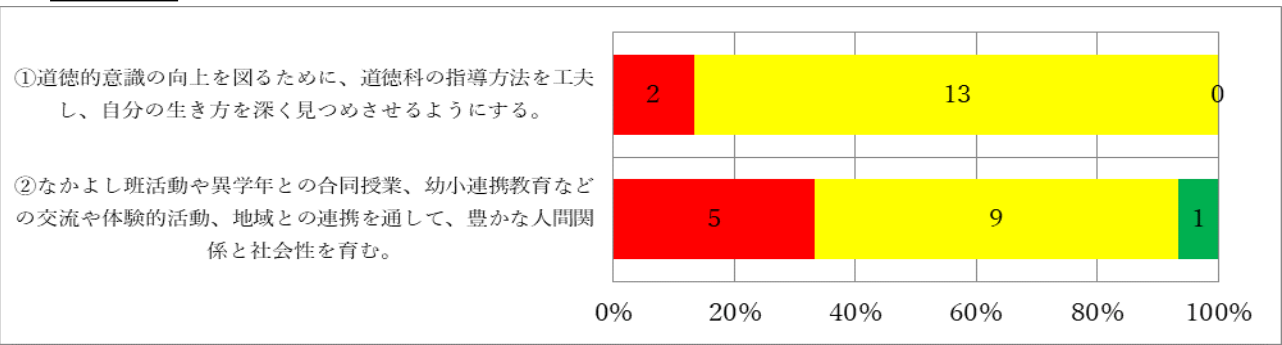


(1) 重点目標1「人と関わり合い、互いを思いやる心の育成」

保護者



教員



「人と関わり合い、互いを思いやる心の育成」の重点目標では、「よくあてはまる」「あてはまる」の合計で、1項目について保護者から87.1%と高い評価をいただいています。なかよし班活動などの縦割りによる活動や幼稚園との交流活動については、今年度は新型コロナウイルス感染症対応をしながらの実施でしたが、令和3年度より実施の幅が広がりました。どちらの項目も、教員の回答では、「十分達成している」が低いことから、子どもたちの思いやりの心の育成に向けて、活動の工夫をさらに進めていく必要があると考えます。

一方、平成30年度から始まった「特別の教科 道徳」を含めた道徳教育については、「よくあてはまる・あてはまる」との回答が70.8%となっています。昨年度の84%より13ポイント減少しています。教員の回答も同様に高くないことから、学校全体での道徳教育について改めて重点を定め、道徳科の授業の充実も図ってまいります。また、「よく分からない」との回答が20%あることについては、道徳科の授業の理解を得られるよう、保護者会等でより丁寧に保護者へ説明し、道徳授業地区公開講座の参観資料等の工夫をしていきたいと考えています。

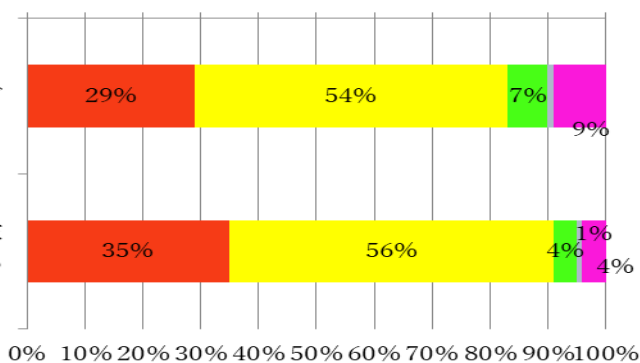
児童アンケートでの「学校の約束を守っていますか」は「よくあてはまる」「あてはまる」の肯定的回答が82.8%と昨年度より8.5ポイント減少しており、「先生は悩みなどについて話しやすいですか」も同様に肯定的回答が62.7%と昨年度より9.0ポイント減少しています。児童数の増加や算数少人数加配教員が年度当初から年間を通して配当されなかったことなどが背景にあり、児童一人一人に丁寧に接する必要性が表れています。児童への声掛けを増やして改善を図ります。友達との関係づくりについて、休み時間の生活指導を含め、今後も工夫と充実を図ってまいります。

（２）重点目標２「確かな学力の保証と学習意欲の喚起」

保護者

①学力向上プランに基づく授業を推進し、教材・教具の整備、教育環境の充実を通して、どの子どもも意欲的に取り組み分かる授業を行う。

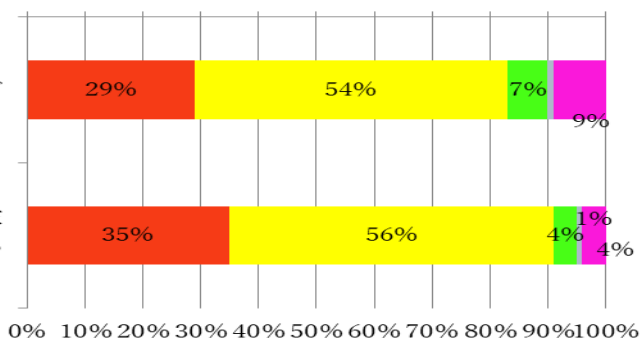
②チャレンジタイムや東京ベーシック・ドリル、タブレットの有効かつ継続的な活用と、家庭と連携した学習により、基礎・基本の学力の定着を図る。



教員

①学力向上プランに基づく授業を推進し、教材・教具の整備、教育環境の充実を通して、どの子どもも意欲的に取り組み分かる授業を行う。

②チャレンジタイムや東京ベーシック・ドリル、タブレットの有効かつ継続的な活用と、家庭と連携した学習により、基礎・基本の学力の定着を図る。



「確かな学力の保証と学習意欲の喚起」の重点目標では、86.8%以上の肯定的な回答をいただきました。学力向上プランに基づく授業を推進し、分かりやすい授業に努めてきているものの、保護者の評価では、「あまりあてはまらない」と「分からない」で16.9%となっています。全体として昨年度より5.3ポイント肯定的な回答が減少しています。教員の評価も「よくあてはまる」が昨年度より20ポイント以上増えましたが、あまり高くありません。児童へのアンケートで「授業の内容はよく分かりますか」については、91.8%が「よくあてはまる」「あてはまる」との回答で、「あまりあてはまらない」「あてはまらない」が8.2%です。昨年度から肯定的な回答が3.8ポイント減少しています。特に今年度は、算数科の専科教員が配当されなかったため、算数科の習熟度別少人数学習が行えなかったことが大きな要因として挙げられます。校内研究を積み重ね、さらに授業改善に取り組むことと、保護者にもその内容について伝えて、家庭と連携した学習環境の構築をしてまいります。

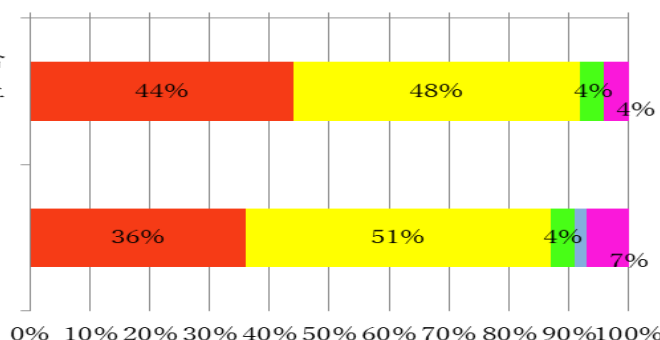
今年度の各種学力状況調査において、本校の4～6年の子どもたちの平均は、全国の平均より上まわる傾向がみられました。区の平均を下まわる教科が見られましたが、昨年度よりも改善されています。来年度は算数少人数授業などの指導体制をとり、今年度同様にチャレンジタイム（朝学習）、夏休み学習広場など基礎・基本の定着を図る取組を継続させ、家庭学習についても保護者と連携をとりながら、「基礎・基本の学力の定着」を図っていきます。

（３）重点目標３「児童の体力と健康への意識向上」

保護者

①「全校一輪車活動」、「なわとび月間」を含め、体育的活動の充実により、児童の体力向上を図る。

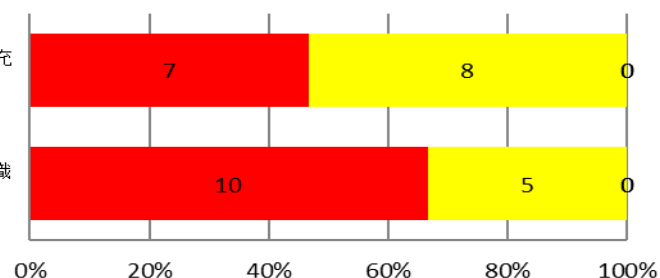
②新型コロナウイルス感染症について理解し、感染防止への意識を高める。



教員

①「全校一輪車活動」、「なわとび月間」を含め、体育的活動の充実により、児童の体力向上を図る。

②新型コロナウイルス感染症について理解し、感染防止への意識を高める。

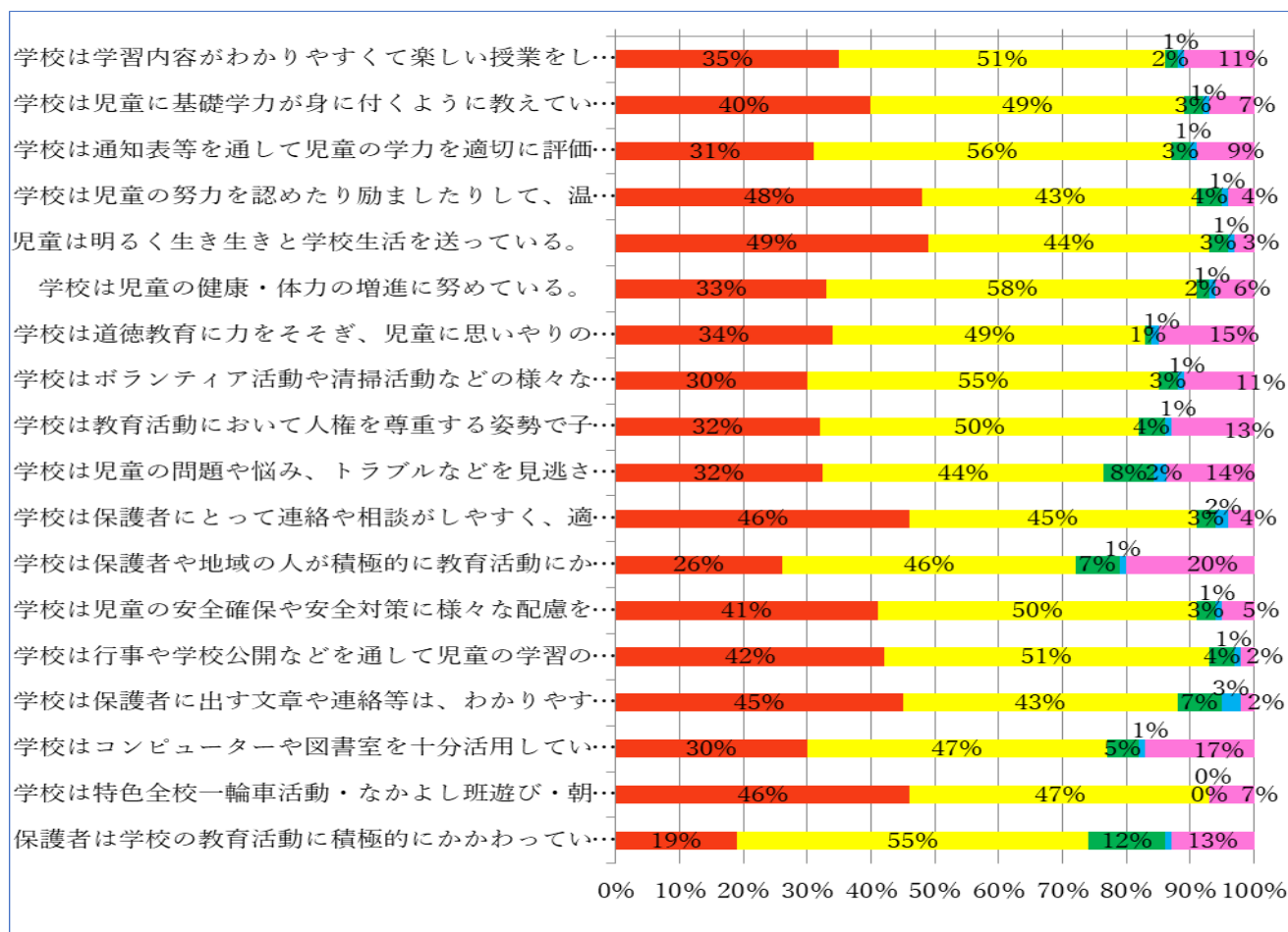


「児童の体力と健康への意識向上」の重点目標では、89%以上の肯定的な回答をいただきました。本校の特色である全校一輪車活動を含めた様々な体育的活動に対してご理解をいただけていると考えます。また、新型コロナウイルス感染症の流行下でも個人で取り組める「なわとび」への取り組みを工夫し、指導しています。児童のアンケート結果では、「休み時間（一輪車）や体育の時間などで運動や遊びをしていますか」の項目に、79%の児童が「よくあてはまる」「あてはまる」と回答しています。昨年度より6.

8ポイント減少しています。児童数の増加により校庭や体育館使用の空間的・時間的余裕が以前より減ったことと、感染症対応による制限が続いたことが重なった環境が原因のひとつと考えられます。体力づくりへの取組の成果の向上が見えておらず、さらなる工夫をしまいいります。また今後は、「あまりあてはまらない」「あてはまらない」と回答した児童への指導の工夫を考えていく必要があります。一人一人の子どもが自分の健康について考え、すすんで体力づくりに励むことができるよう体育的な活動をさらに工夫していきます。教員の回答では「十分達成している」が比較的高く出ました。大きな感染症の拡大を招かずに、体力作りの取組を拡大できたことが背景にあると思われます。日常的な体力づくりへの取組について工夫し、充実させていくことを考えていきます。

2 重点目標以外の評価における達成状況及び達成のための取組状況

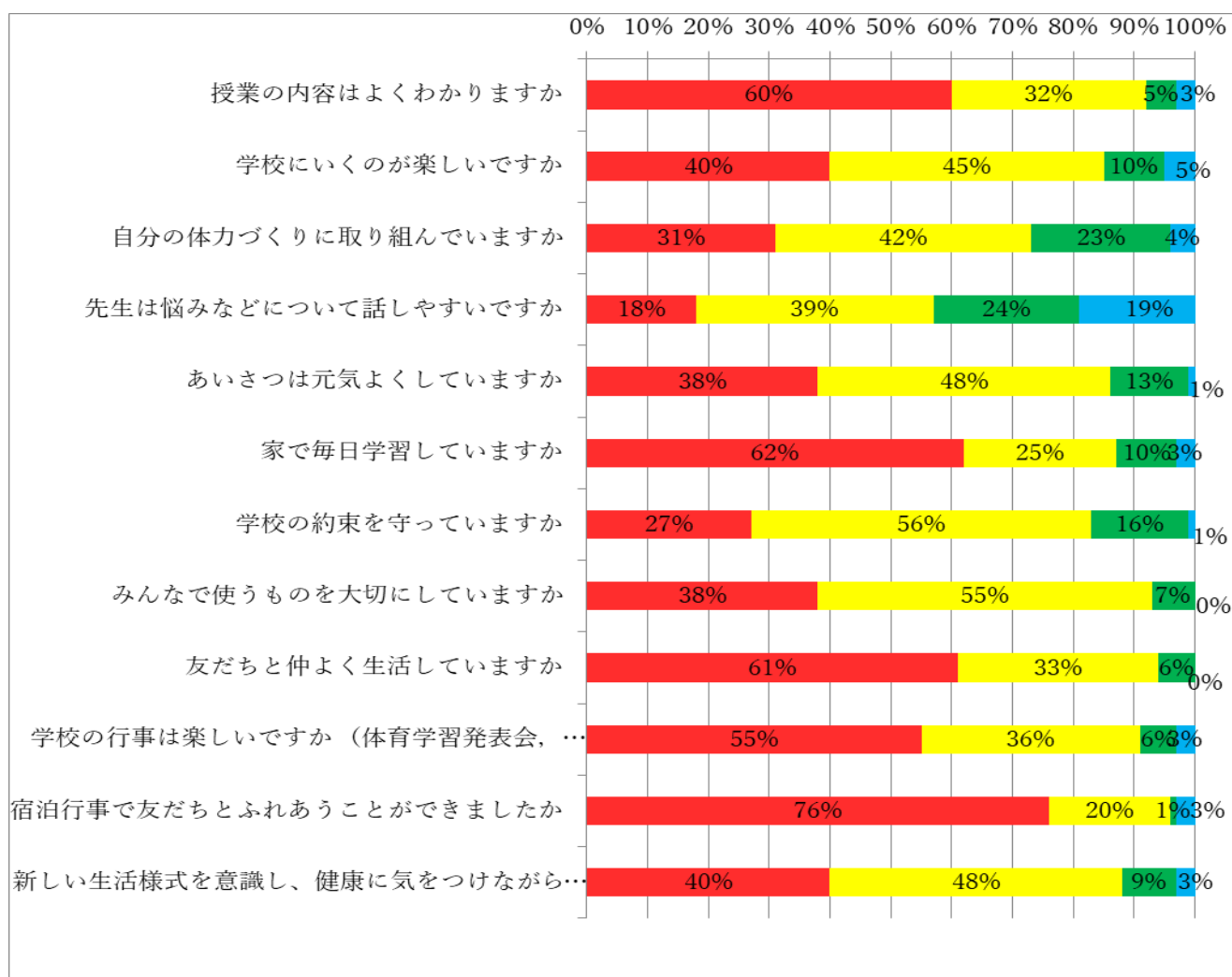
＜保護者アンケートによる評価＞



全体の評価については、18項目中、14の項目で「よくあてはまる」「あてはまる」の評価が80%以上、7項目が90%を超えるという高い評価をいただきました。昨年度と比べると、90%以上の評価が6項目から1項目増となりました。今年度は感染症対策をとりつつ、学校行事や学校公開の制限等を行った実態から、「学校は保護者や地域の人が積極的に教育活動に関われるようにしている」の項目は、特に低い評価となったと思われます。保護者には、今後も学校だよりや各学年だより、学校ホームページなどで本校の教育活動についてご理解いただき、保護者会や個人面談、学校公開、学校行事などを通じて子どもたちの成長に向けて関わっていただけるよう呼び掛けるとともに、学校行事のあり方について工夫をしていきたいと考えています。項目別に見ると、特に今年度の取組について、「児童は明るく生き生きと学校生活を送っている」の項目で93.8ポイントの肯定的な評価がされ、昨年度よりさらに2.8ポイン

ト増加しました。中央区では、昨年度よりタブレット端末を児童に1人1台貸与し、授業で活用するだけでなく、Google classroom を使い家庭との連絡にも用いています。また、これまで以上に、ICT機器を効果的に使った授業を工夫してまいります。「学校は児童の問題や悩み、トラブルなどを見逃さずに相談にのったり指導したりする」では、「あまりあてはまらない」「あてはまらない」「わからない」が24%と他の項目より高くなっています。昨年度より3ポイント増えており、スクールカウンセラーとの連携の強化や複数の教員での児童対応など、より一層児童一人一人に応じた相談体制や指導体制を整備し、保護者からの信頼を得ていく必要があると考えています。

<児童アンケートの状況より>



4～6年児童によるアンケートの全体の評価では、12項目中、10項目で「よくあてはまる」「あてはまる」の評価の合計が80%以上となり、その内5項目で90%以上という評価となりました。

特に、「宿泊行事（セカンドスクール・館山林間学校・本栖移動教室）で友達とふれあうことができましたか」「みんなで使うものを大切にしている」「友だちと仲良くしている」などでは95%近い評価となりました。学校生活での児童自身の達成感の表れであると捉えることができます。中でも「宿泊行事で友達とふれあうことができましたか」は、「よくあてはまる」「あてはまる」が96%と、宿泊行事が再開されたことによる児童の達成感の高さがみられます。「ものを大切にしている」項目では、貸与されたタブレットを扱う中でも、この意識が醸成されたようです。

「家で毎日学習している」では、「よくあてはまる」が昨年度より9ポイント減り、「よくあてはまる」「あてはまる」の合計も4ポイント減りました。感染症の影響が長引き在宅時間増加が続いたことも関係があると思われます。今後も学校と家庭と連携して学習を進めていきたいと考えています。

「学校にいくのが楽しい」については、肯定的な回答が84.5%です。昨年度より2.5ポイントの微減をしています。100%の子どもが肯定的な評価ができることをこれからも目指していきます。

気になるところでは、「先生は悩みなどについて話しやすい」の項目の肯定的な評価が62.7%と低く、昨年度からも9ポイント下がっていることと、「自分の体力づくりに取り組んでいる」の項目で、「よくあてはまる」「あてはまる」が昨年度から8.8ポイント評価が下がっています。原因として、3年生以上の算数科で前年度まで行っていた習熟度別少人数授業が行えなかったこと、児童数増加により校庭や体育館の一人あたりの使用時間・面積が減少したことや、教員が一人一人へ関わる機会が増えにくい現状が背景にあると考えます。次年度に向けて、これまで以上に子どもたち一人一人に寄り添い、子どもたちの道徳性や健康への意識と、自己肯定感を高めていけるよう取り組みます。

3 今後の改善方策

(1) 教員の指導力を高め、授業改善を行い、児童の基礎・基本の力を定着及び学力・体力の向上により、児童の達成感を高める。

- ・校内研究の充実、算数少人数指導体制の充実、チャレンジ（朝学習）の充実、体育的な活動の充実、ICT機器の活用、ICTも活用した家庭学習との連携強化 など
- ・教員の働き方改革の着実な取組により、授業や子どもと向き合える時間を増やす。

(2) 一人一人の子どもの状況を把握し、子どもたち同士の人間関係を良好にするために、人権尊重を基本とする教育活動を充実させる。

- ・思いやりを基本とする学級づくり、道徳科の授業の充実、子どもたちの活躍の場の設定、3つの「あ」（あいさつ、あつまり、あとしまつ）の励行 など
- ・生活指導や教育相談に対しては、未然防止も含め「迅速・誠実・丁寧」を大切にしたい対応に努める。
- ・スクールカウンセラーや担任以外の教員等、複数の教職員で児童の育成・対応にあたる体制づくり。

(3) 保護者・地域との連携を深め、学校・保護者・地域が一体となって教育活動を進める。

- ・学校公開、学校行事、特別授業などでの地域・保護者との関わりの充実
- ・学校だより、学年だより、学校ホームページ、タブレット活用などでの発信の充実
- ・保護者会、個人面談、教育相談などでの情報交換の充実